

被保護母子世帯の日々の生活に関するアンケート結果

平成 22 年 6 月 29 日
厚生労働省社会・援護局保護課

被保護母子世帯の日々の生活に関するアンケート

（概 要）

全国の※被保護母子世帯の世帯主に対し、母子加算復活前後の生活意識の変化や母子加算の使途等につき、アンケートを実施したもの。

※ 生活保護を受給している世帯のうち、現に配偶者のいない（配偶者が生死不明の場合を含む。）65歳未満の女子と18歳未満のその子（養子を含む。）だけで構成されているもの

ア. 実施時期：平成22年6月

イ. 対象：平成22年度社会保障生計調査の対象となっている被保護母子世帯(284世帯)

ウ. 方法：アンケート用紙及び回収用封筒を配布し、世帯主が記入後、厚生労働省あて郵送する。

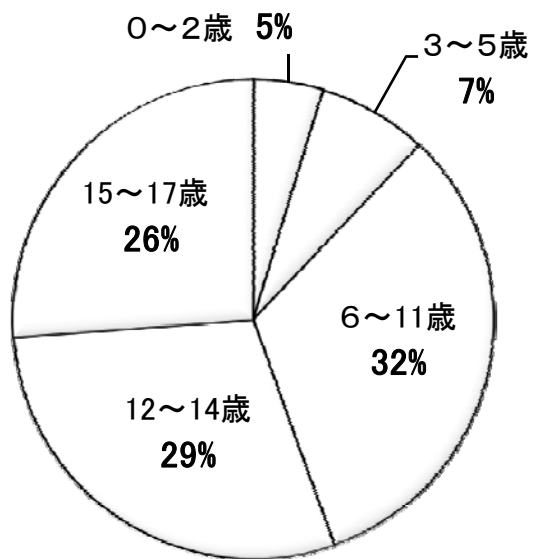
（回収結果）

回収数（率） 161世帯 （57%） （平成22年6月23日現在）

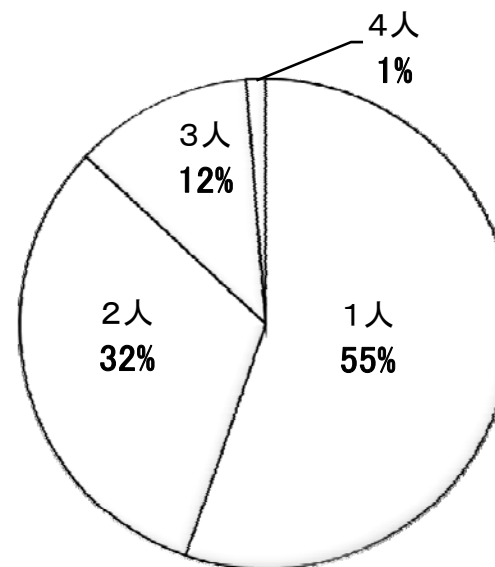
1 子どもの年齢等について

- ・ 被保護母子世帯における子ども（18歳未満）の年齢別の構成割合を見ると、「6～11歳（小学生）」が32%と最も多く、次いで「12～14歳（中学生）」が29%、「15～17歳（高校生）」が26%となっている。
- ・ 1世帯当たりの子どもの数は、「1人」が55%と最も多く、次いで「2人」が32%、「3人」が12%となっている。

子どもの年齢



1世帯当たり子どもの数

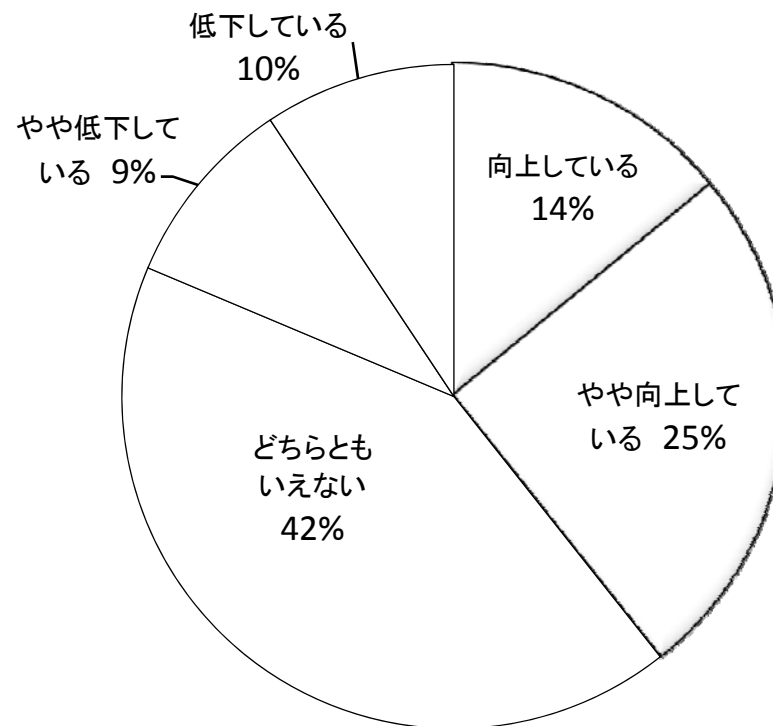


※ 本アンケートの対象世帯は、世帯人員5人以下となっている。

2 日々の生活に対する意識について

- 日々の生活に対する意識について、母子加算復活前の平成21年6月頃（以下「昨年の同時期」という。）と比べ、回答者の39%が「向上している」又は「やや向上している」と回答している。

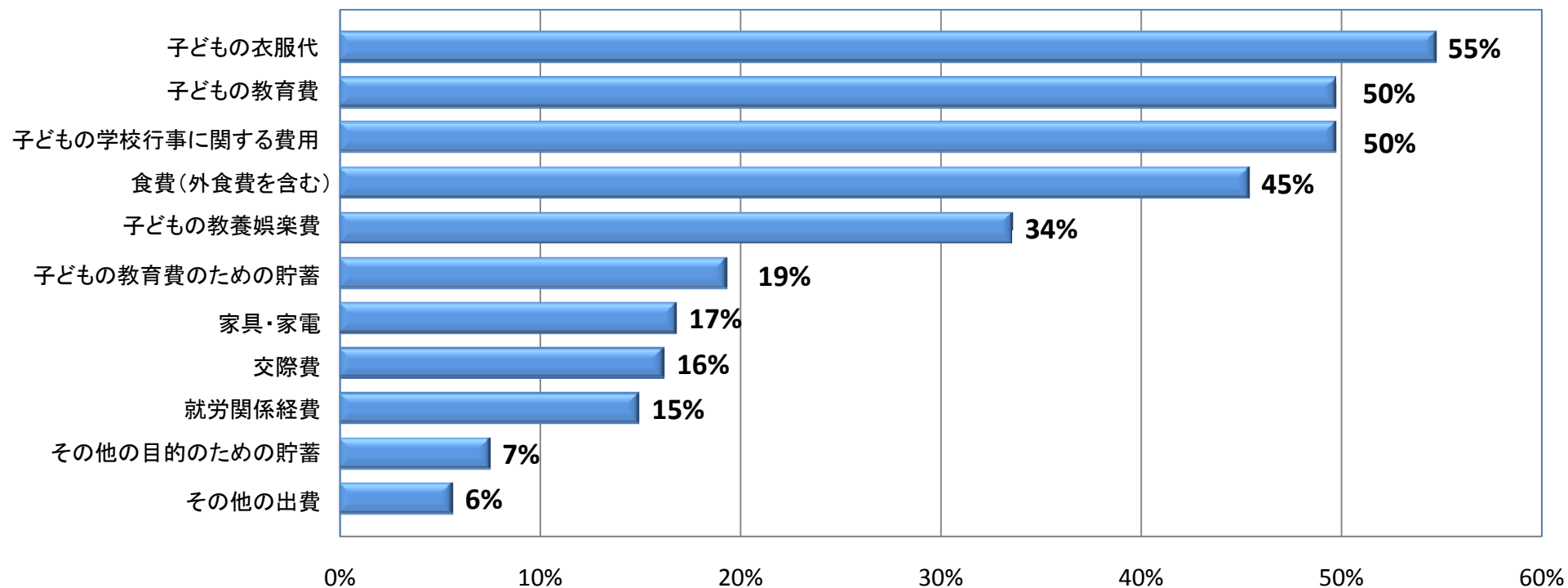
日々の生活に対する意識



3 母子加算の使途について

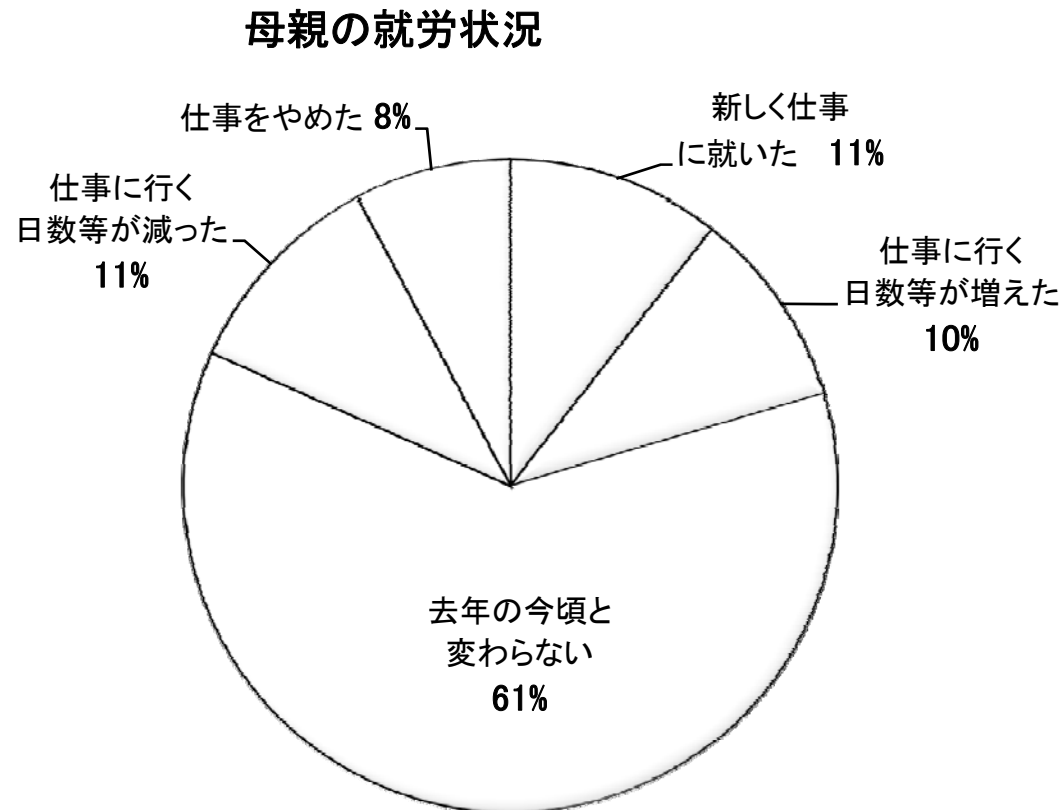
- 母子加算の復活によって、昨年の同時期と比べ出費が増えた項目（複数回答）は、「子どもの衣服代（55%）」、「子どもの教育費（50%）」、「子どもの学校行事に関する費用（50%）」などが上位を占めている。

母子加算復活により出費又は貯蓄が増えた項目 ※複数回答



4 母親の就労状況について

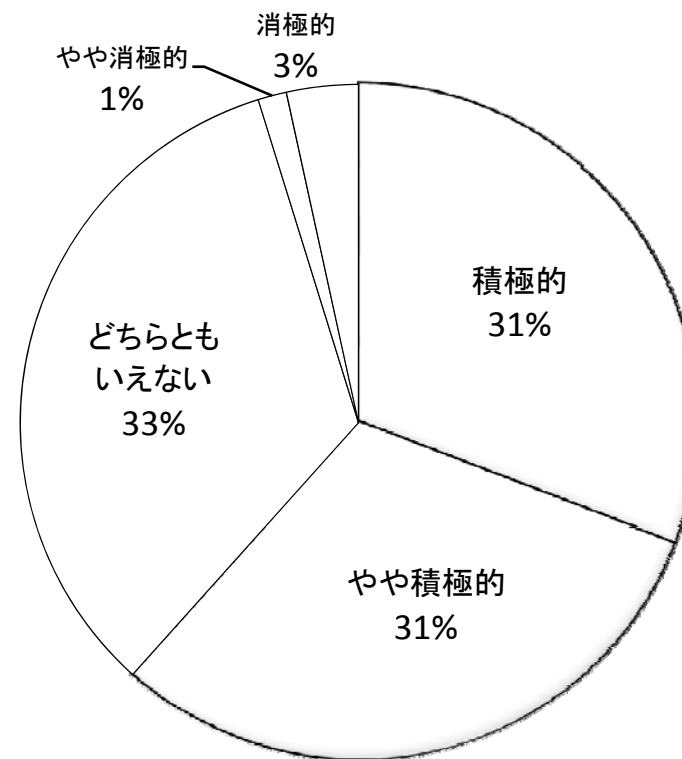
- ・ 母親の就労状況について、母子加算復活前の昨年同時期と比べ、回答者の21%が「新しく仕事に就いた」又は「仕事に行く日数等が増えた」と回答している一方、最も多く回答しているのが「去年の今頃と変わらない」で、回答者の61%を占めている。



5 子どもの進学や学校行事の参加に対する意識について

- 子どもの進学や学校行事の参加に対する意識について、母子加算復活前の昨年の同時期と比べ、回答者の62%が「積極的に考えるようになった」又は「やや積極的に考えるようになった」と回答している。

子どもの進学や学校行事の参加に対する意識



6 将来の生活に対する悩みや不安について

- 将来の生活に対する悩みや不安について、母子加算復活前の昨年同時期と比べ、回答者の15%が「軽くなった」又は「やや軽くなった」と回答する一方、回答者の38%が「重くなった」又は「やや重くなった」と回答している。

